

アスパラガスの保温開始前の液肥施用による春芽の萌芽促進						
[要約] アスパラガスの保温開始前に液肥を施用することにより、 <u>春芽</u> 初期の萌芽が促進され2月の収量が増加する。						
総合農林試験場・野菜花き部・野菜科	専門	栽培	対象	葉茎菜類	分類	指導
資料名：						

[背景・ねらい]

アスパラガスの面積拡大が進む中、春芽については、3月中下旬に出荷が集中し価格安を招いており、出荷の分散化及び平準化を進める必要がある。また、出荷を前進化するために、1月下旬に保温を開始する場合、2月の一斉萌芽を促進することが課題となっている。

このため、保温開始前の液肥灌注が、春芽の初期萌芽収量および品質に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．保温開始前に液肥の土壌灌注又は畦全面施用を行うことにより、初期の萌芽が促進され2月の春芽収量が増加し、春芽の前進化が図られる（表1、図1、図2）。
- 2．火山灰土壌及び安山岩土壌で初期の萌芽数が多くなり、灌注の効果は3～4週間持続する（図1、2）。
- 3．春芽の糖度(Brix)は、液肥の土壌灌注及び畦全面施用のいずれも、灌水のみと同等となる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．保温開始から萌芽初期までは保温を徹底し、地温を確保する。
- 2．収穫開始から3～4週間後に必要に応じ追肥を行う。
- 3．灌注量は40L/100株程度とする。
- 4．堆肥層が厚い場合は土壌灌注が望ましい。

[具体的デ - タ]

表 1 液肥灌注と春芽収量 (kg/a)

区 名	2 月	3 月	4 月	合計
土 壤 灌 注 区	50	66	31	148
畦全面施用区	47	68	31	145
灌水のみ区	36	76	41	154
有意差	*	N.S	N.S	
l.s.d(5%)	9.9			

注 1) 液肥灌注日 : 1月23日、保温開始日1月24日、春芽収穫期間2月1日 ~ 4月23日

2) 土壤灌注区 : 土壤25cm深部内、畦両端の50cmおきに40L/100株(液体ジ'ャンプ°(6-1-3) 300倍)灌注

畦全面施用区 : 動噴により畦上全面に40L/100株(液体ジ'ャンプ° 300倍)散布

灌水のみ区 : 畦上全面に40L/100株灌水

3) 冬肥施用 : L P コート (N:P:K 15-0-0(kg/10a))

4) 定植 : 平成9年10月14日

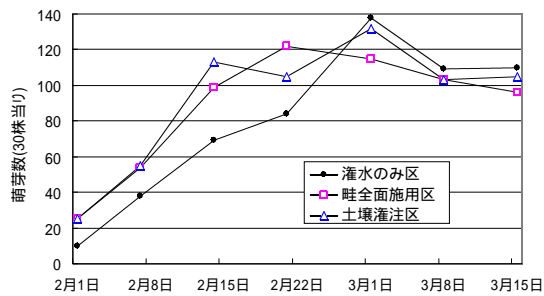


図 1 黒ボク土の萌芽数

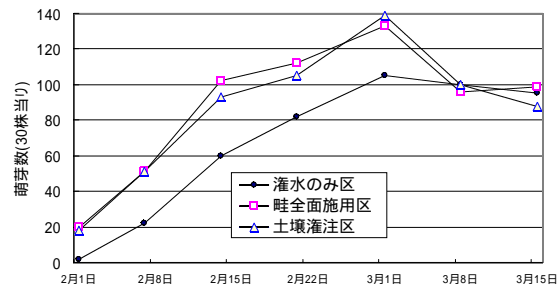


図 2 安山岩質黄色土の萌芽数

表 2 液肥灌注と時期別の春芽糖度 (Brix)

区名	2 月 1 5 日		3 月 4 日	
	先端部	中央部	先端部	中央部
土 壤 灌 注 区	9.7	4.5	9.8	4.4
畦全面施用区	9.2	4.4	9.6	4.3
灌水のみ区	8.0	4.5	8.9	4.2
有意差	*	N.S	*	N.S
l.s.d(5%)	1.1		0.7	

注 1) 25cmの出荷若茎10本の先端部及び中央部の平均

[その他]

研究課題名 : アスパラガスの高品質生産技術開発

予算区分 : 県 単

研究期間 : 平成 1 3 ~ 1 7 年度

研究担当者 : 居村正博